

「あの日からの決意」

宮城県 仙台市立中田中学校 3年 高橋 悠太

土砂災害、それは生活のすべてを飲み込む。現在「西日本豪雨」で多くの人に被害が出ている。現在、京都府、岐阜県、愛媛県、岡山県、広島県、福岡県、この6県で26,496棟が被害がでており死者203人、行方不明者は少なくとも47人にのぼっている。テレビや新聞のニュースでは毎日のように西日本豪雨の事を取り上げられている。毎日遺体が見つかっていて、僕は自分の事のように悲しく辛い気持ちになる。僕は、このような災害についてどうしたら被害を減らす事ができるのかをくわしく調べて見る事にした。インターネットサイト「NHKそなえる防災」によると、日本では毎年平均1,000件も超える土砂災害が発生しているそうだ。しかもこの土砂災害の件数は年々多くなっている。けがをする人、行方がわからなくなる人、亡くなってしまいう人も多い。だがなぜ毎年1,000も超える発生件数なのに死者が出るのを防ぐことができないのだろうか。調べた結果、土砂災害というのは突発的に発生するために、予知・予測が非常に難しく人命被害が発生しやすい災害である事がわかった。僕はこの突発的に発生する災害から命を守るためにどのようにすればいいのかを考えた。一番大切なのは土石流から逃げられる安全な地域を探すという事だと思う。しかもただ逃げればいいのかではない。いつ危なくなるとどのタイミングで避難するのか、どのルートで逃げるのかという3つのポイントを知らないと自分の命は守れないと思う。いろいろな町や市でがけ崩れを起こしやすい場所などは情報を持っている。いつでも使えるように情報を区域で分けられている場合もある。例えば「土砂災害警戒区域」をイエローゾーン、「土砂災害特別警戒区域」をレッドゾーンというのだ。レッドゾーンというのは、土砂災害によって家が壊れたりする可能性が高いエリアである。イエローゾーンでは、土砂が到達したり土地が崩れたりする可能性のあるエリアである。だからこの2つの1つでもあてはまる地域であれば、すぐに逃げなければいけない。僕の住む仙台市でも土砂災害から身を守るハザードマップが作られている。しかし、友達に聞いてもハザードマップがある事を知らない人ばかりだ。でも、中学生の僕でもこのハザードマップを見ればよくわかった。だから多くの人にHPなどでしっかりと確認をしてほしい。現在は、土砂災害警戒情報も、ラジオ、パソコン、スマートフォンなどたくさん手段で知る事ができる。この情報や、手段を使って家族と避難の場所の連絡を早くとる事が大切だ。僕は東日本大震災を経験した。土砂災害ではないが僕はすべて失った。でも命だけは助かって家族と会えた。だから家族としっかりと話し合っしてほしいと思う。どこで待ち合わせをして、どうやって連絡を取り合うかを。

さらに僕は、1回1回の避難訓練で避難に慣れる事も大切だと思う。そうすれば本当の避難の時にあせらず平常心で行動ができる。大震災の時もそうだったがあわてないという事はとても大切だ。命を落とさずにすむために自分で冷静に逃げる事を忘れてはいけない。

逃げる時の避難場所・安全な場所を知っておくと安心できる。僕も学校の訓練で地域の指定避難場所を川などを通らずに安全に避難できる経路を実際に歩いて確認する。土砂も水も予想できない速さで襲ってくる。だから甘く見ないで命を守るシミュレーションをしておく事が必要だと思う。

また、普段から地域の人達とコミュニケーションを大事にする事も必要だと思う。僕は陸上部に所属しているが自分からすすんで挨拶し、日頃からコミュニケーションを取り合わない信頼関係は作れないと教わっている。ちょっとした挨拶や声かけでもつながりを持てれば避難する時も避難生活が長引いても協力し合えるはずだ。

そして、早めの避難準備や心構えをすると良いと思う。今までにない大雨、例として西日本豪雨のような時に、もし夜中だったら何も身動きが取れない事がある。想定外は起こるという事を僕は震災から学んだ。だから早めに準備して逃げれば自分の命は守れる可能性は高まる。水や土砂とは陸上と一緒に時間との勝負なのだ。

土砂災害、それは恐い災害で人の幸せを奪う。だからこそ、しっかり災害から備えてこれからの災害で1人も死者がでないようにしたいと僕は思う。あの日、生き残った僕だから伝えたい。日頃からの「心構え」を持って、自分の命を守るという事を。